

お母さんの アンテナ

※今回は12/8に開催された野呂美加さんのお話会に参加したお母さんの報告です

野呂美加さん（NPO法人「チェルノブイリへのかけはし」代表）は、20年間、チェルノブイリ原発事故で汚染されたベラルーシから子供たちを招待し、転地療養させる活動をされてきました。

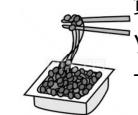
お話の内容

- ・「もう被曝しちゃったからしょうがない」とあきらめるのは間違い。体はダメージを修復する力があるから、被曝を回避する努力をする。大人があきらめたら、子供も人生をあきらめる。ホールボディーカウンターで体の中の汚染を測ること。放射能が溜まっていたら出せばいい。大人も子供も、男女の区別なく定期的に甲状腺の検査を受ける必要がある。甲状腺が悪くなると、関節が痛くなる、記憶力が悪くなる。いろいろな、うつになったり、体重の異常な増加、減少もある。精神的な病気や内臓の病気も出てくる。
- ・日本の医師は、「甲状腺がんは、命に別条はない。予後がいい」というが、子供は進行がものすごく早い。ベラルーシでは、結節をほっておいたら、肺やリンパに転移するから、半年に1回スクリーニングをする。
- ・今、福島で行われている甲状腺がん手術は部分切除だが、チェルノブイリでは再発が多く、全摘手術をしている。一生ホルモン剤を飲み続け、半年に1回スクリーニングを受けなければならない。とても過酷で、予後がいいとは言えない。早期発見早期治療しかない。
- ・ベラルーシでは、年間総被曝量が1ミリシーベルトを超えたら、被曝者認定を受けられ、健康診断は無料で子供たちは保養にいく。5ミリシーベルトを超えたら強制移住。国の責任で代替の土地、仕事を与える。毎時0.5マイクロシーベルトを超えたら子どもたちは住んでいない。

・ベラルーシの死因の半分は心臓病。事故後10年くらいで、心臓病で突然亡くなる大人が増えた。大人の場合は、ガンや白血病になる暇がない。

- ・1990年からの10年間に大都市のゴメリで小児甲状腺がん68名。福島は、2年半で58名。「百万人に1人」と言われるが、一つの学校に2人出ている。
- ・子どもたちはチェルノブイリエイズと言われ、抵抗力が落ちて発症してしまったら重い病気に次々とかかる。発症してないが、関節が痛い、物忘れが激しい、頭が痛い、鼻血がでる、胸が痛い、背中の腎臓のあたりが痛いという子たちを保養でよんでいた。1ヶ月保養するとその症状がなくなる。その子を発病させない、予防するというのが保養運動の目的。27年たった今でも、ドイツやイタリアで保養をやり続けている。
- ・長野県松本市で子どもの留学プログラムができた。国はやらない。ぜひ安全なところへ子どもを留学させて欲しい。

・食べ物は汚染されていないものを食べることが大事。遺伝子（DNA）を作るときに必要な、ビタミンCや微量ミネラル（玄米、胡麻和え）、タンパク質、良質なアミノ酸（発酵食品）、ナッツ類を取る。油菓子は、体を錆びさせるので食べさせないこと。



ひさくんによる



須田 儀一郎 事務長

<みんなの拠り所になる診療所へ>

実は、診療所のすぐ裏にある岳陽中出身なんです。小学校は吉井田小でした。診療所のある地域は、まさに「ザ・地元」です（笑）

受付から見える子どもたちの様子に癒されています。ドアを開けると、待合席なんて通り越してダーとキッズコーナーに向かう子どもたちが多くいますね。250冊ある絵本のうち、一番人気は『うんち』（著：いもとようこ）なんですよ♪

ふくしま共同診療所は単なる医療機関ではありません。患者・家族・医師・看護師・スタッフも含め同じ人として向き合える場です。

そして診療・学習・相談が出来るみんなの拠り所になるために、第2期工事に向かってスタートしました。皆様のご支援これからも宜しくお願いします。

レポート

内部被ばく検査「検出されず」はゼロなのか？

「検出されず」ってどういうこと??



「ゼロということなの??」

「内部被ばくはしていないの??」

内部被ばく検査はホールボディーカウンター（英語：Whole Body Counter）通称WBCと呼ばれています。（※1）



我が家では当時（2012年1月ごろ）小学生だった子ども達2人が、学校で平田村の病院にいきWBC検査を受けてきました。

大人は、翌年の夏に市内の病院でWBC検査を受けました。約3ヶ月後に検査結果を受け取りました。その結果が「内部被ばく検査結果報告書」（※2）です。家族全員「検出されず」という結果でした。

すぐに「検出されず」とはどういうことか？と頭に浮かびました。

内部被ばくしていなかったのか？「放射能がゼロ」ということなのだろうか？疑問を持ちました。

放射能は、時間がたつと体内から排出されるため、WBC検査自体、原発事故発生から、数ヶ月以内でないとい測定できないといわれています。計測できるのは、ガンマー線（セシウム）のみです。アルファ線（プルトニウム）、ベータ線（ストロンチウム）は計測できません。

今回の検査では、検出限界値は、300ベクレル/人でした。つまり、ゼロではなく、299ベクレル/人では、「検出されず」という検査結果が出ることになります。（WBCの機種によって、検出限界値は変わります）

「検出されず」という結果では次に測定しても、比較ができません。また、内部被曝をしていないという安心もできません。

以前ある企業で行ったWBC検査を受けたときにもらった検査結果を思い出しました。

その検査結果報告書には、エネルギースペクトログラフ（ガンマー線スペクトログラフ）がついていました。（※3）

そこで、市役所にWBC検査のエネルギースペクトログラフがあるか問い合わせました。グラフがあるということだったので、早速、情報開示請求をしました。



自治体からきた検出されずの結果でした。

グラフを見ると、体内の放射能はゼロではありませんでした。体の中の山（ピーク）になったエネルギー核種もわかりました。

そして、検出限界値以下の数値も参照として載っていました。

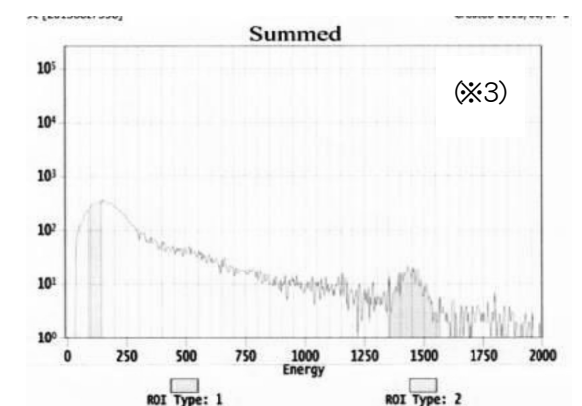
（本来なら、このグラフの結果も検査した本人に渡すべきだと思います。）

放射能の人体への影響は、まだわからないことが多いと言われています。

まずは、検査をしっかりと受けましょう。そして、結果を、しっかり保存しましょう。

将来、この情報は、大切な記録になると思います。

情報開示請求は、どなたでも各自治体においてある書類で請求することができます。まずは自治体に相談してみるのも良いと思います。



情報開示できたエネルギースペクトログラフ